

ほっけもん

234 先輩



今月の表紙

『未来へ向かって、飛んで行け。』

11月23日に開催された『ふれあいフェスタ』のラストシーン。来場者へのサプライズエンディングとして、子どもたちが一斉にバルーンリリースを行いました。未来をつくる子どもたちの夢と希望をのせ、大崎町のさらなる発展を願いながら、80個のバルーンが大空へ放たれました。

薩摩郷白 兼題『精一杯』

目呆い 精一杯叫れじよい 老夫婦
 (唱) 傍で聞ちよれば 喧嘩んごあつ
 北村 虎王
 錆つ喰らた 脳で精一杯ん 句を捻つ
 (唱) そんな割いいつも 良か郷句が出来つ
 満石 うらら
 生きつとに 食とが精一杯ん 終戦後
 (唱) 甘藷ん蔓どん 食たこつもあつ
 上窪 小絵
 球拾るを 精一杯した子が プロいなつ
 (唱) 根性があつで 良か選手しゆなる
 二見 愚菜満
 夢は横綱 こいも仕事ち 精一杯食つ
 (唱) 叶つめ食ながい 今日も稽古相撲
 諸木 小春
 血の涙 精一杯な稽古ん 金メダル
 (唱) 陰の努力が 相当なもんじやる
 上村 牛歩
 ごま擦りが 精一杯狙ろちよい 課長ん席
 (唱) ちわいちわいで 部長ん尻ゆ舞つ
 西ノ園 ひらり

大崎短歌会 兼題『師走』

母と行きし 師走の志布志 商店街
 洋服を買い 羽子板買いぬ 長重 悦子
 生前の 姉のひとこと 一言を
 思い続けて 師走となりぬ 坂元 つる子
 ソバをうち 餅をつきして 賑やかな
 師走はもはや 思い出となり 穂園 芳江
 夜通しの 仕立物続け その昔
 師走を迎えしと 姑は語れり 児玉 チツ
 霜月に 師走のうたを 詠まむとて
 雲ひとひらも 無き空仰ぐ 原田 葉子

大崎俳句会

秋桜 庭を彩る 夕日燃え 宮下 のし
 手につきし 秋の蚊 思いきりたく 三浦 倫子
 新米の 香り漂ふ 両隣 折田 スズ
 送り火の さびしく揺るる 門の角 坂元 つる子
 粒あんの おはぎ仕上る 秋彼岸 春田 昌子
 雲間より 半ば覗ける 後の月 桑原 正樹
 傘寿会 昔を今に 戻り花 宮脇 洋子

人権啓発シリーズ

犯罪被害者等の人権

～励ますよりも寄り添ってあげようよ～

被害者に寄り添って

被害にあった後は、人目が怖くて外出できなくなったり、無責任なうわさで傷つけられたりするなど、多くの問題が生じます。「もしも自分が被害者だったら」と相手の立場で、今はどのようにしてほしいかを考え、傷ついた心にそっと寄り添う思いやりが大切です。

回復するまで配慮を

平穏な生活を取り戻すためには、安心して働き続けられる職場の環境づくりが不可欠です。回復するまで仕事の負担を軽減したり、通院や裁判への出廷などのために休暇をとることができるよう、できる限り配慮しましょう。